

一般社団法人朝霞地区薬剤師会

あさやくだより

第2号
2018



(一社)朝霞地区薬剤師会
 発行人:広報委員長 細川 玄機
 〒351-0021朝霞市西弁財1-10-21-312
 TEL:048-483-4125 FAX:048-483-4126
 asaka-ph@asakaph.or.jp

新しい年を迎えて 会長挨拶



明けましておめでとうございます。
 皆様におかれましては、健やかに新年を
 お迎えのこととお慶び申し上げます。
 昨年も充実した活動の一年でした。

今年にはポリファーマシー対策や健康サ
 ポート薬局推進などの継続事業がある上に、大きな報酬改
 定の年にあたります。薬剤師会では年末に、改定の最新動
 向をお知らせする研修会を開催しました。

地域包括ケアシステムが一層推進される中で、薬局は今
 後どのように地域の医療・介護や公衆衛生に貢献すべきか、
 そこをきちんと評価する改定であることを望むと共に、薬
 剤師が地域に貢献する場を作る役割として、薬剤師会は一
 層重要な位置づけになるように感じます。

多くの薬剤師がその役割を担うためにも、個人会員の入
 会促進策が必要です。会員の皆様の一層のご支援・ご協力
 をお願いいたします。

本年が皆様にとって、素晴らしい1年となりますよう
 心よりお祈りいたします。

(会長 畑中 典子・かくの木)

小田 美良先生 旭日双光章を受章

今年度、旭日双光章を受章された当会監事の小田美良先生
 が、埼玉県薬剤師会学術大会にて記念品を贈られました。

小田先生は、平成8年から約19年間、埼玉県薬剤師会理事
 および常務理事を務め、県民の保健衛生の向上に努めると
 ともに、会員の資質向上に尽力されました。また、朝霞地
 区薬剤師会においては、平成6年の創立時より5期5年間会長
 を務め、お薬手帳の発案にも加わるなど、会の発展にご尽
 力いただきました。

小田先生、誠におめでとうございます！

(朝霞支部長 渡邊 美知子・あさか台わたなべ薬局)



第46回埼玉県薬事衛生大会 3理事が表彰されました



平成29年10月31日 埼玉会館にて開催され
 た埼玉県薬事衛生大会で、薬事衛生功労賞
 の表彰式があり、私たち朝霞地区薬剤師会
 からも3名の方々を受賞されました。

清水 勝子副会長(埼玉県知事表彰)
 大八木 実理事(薬事団体連合会会長表彰)
 梶谷 祥三理事(薬事団体連合会会長表彰)

清水副会長はこれまでの地域貢献への評
 価で保健所推薦、大八木理事と梶谷理事は

地域薬剤師会を支え、法人化にも大きく貢
 献したことで、薬剤師会推薦で受賞となり
 ました。

特に、長年会計を担当し、目立つことな
 く誠実に役を担ってくださっている梶谷理
 事には、薬剤師会理事一同心から感謝して
 おります。

皆様、本当におめでとうございます。
 (会長 畑中 典子・かくの木)

看護学校合同記念式典に参加して

10月21日 ベルセゾンにて「一般社団法
 人朝霞地区医師会立准看護学校 創立50周
 年」及び「朝霞地区看護専門学校創立20
 周年」の合同記念式典がありました。今
 回、改めて、二つの専門学校の意義と運
 営のご苦勞を知ることができました。

准看護師の資格は医師が主導で看護師
 不足を補うものとして作られたそうです。
 近年、看護師は看護大学で資格を取得す
 る時代になり、少人数の専門学校はま
 ず運営が厳しく、多くの医師会立の学
 校が廃校になっている。しかしながら、
 子育ての終わった方や強い思いを持つ既
 卒者が、働きながら資格取得にチャレン

ジする数少ない場であり、そこから地域
 医療を支える人材が創出されている事実
 は重く受け止めるべきと感じました。

地区内の看護実習生受け入れ施設の
 方々も多数参加し、盛大で楽しい式典で
 した。なにより、医師会軽音楽部の迫力
 ある楽しい演奏にはビックリ。曲目もク
 ラシック、ビートルズ、YMCA、恋、と会
 場全体が湧き上がりました。

また、長く講師を務めてくださっている、
 土岐重則先生(清和堂薬局)、山丸淳司
 先生(やままる薬局)に感謝状が贈られ
 ました。

(会長 畑中 典子・かくの木)



学術・保険制度委員会合同研修会報告



9月25日の研修会「麻薬の適正管理について」では、講師の埼玉県麻薬協会会長岩崎綾子先生から、目からうろこの話を伺うことができました。

麻薬施用者番号は、県が違うと異なるため注意が必要。飲み残し麻薬の安易な引き取りは、麻薬取扱いのない薬局では麻向法違反になります。

自薬局で引き取った場合は、『調剤済麻薬廃棄届』が必要。自薬局で調剤を行っていない場合は、基本は調剤を行った医療機関に返却。患者家族が廃棄することを手伝うことは可能。そのまま薬局に所持してしまい、50日を超えた時は不正所持として処罰の対象。良かれと思ってしたことが処罰の対象になることを学びました。

思わぬ知識が身につく研修会、皆様もぜひご出席ください。
(大倉 裕子・あさか薬局)

4市健康まつり ご協力ありがとうございました



来年もよろしくお願ひいたします。

保険制度委員会研修会報告

10月3日の研修会「地域包括ケアシステムの中で求められる薬剤師の姿」では、厚生労働省保険局医療課の浦克彰氏から、静かな熱意と期待の込められたお話を頂きました。

始めに、人口ピラミッドの推移による医療費及び在宅医療を受ける患者動向、地域包括ケアシステム構築の必然性の説明を受け、医薬分業が70%まで進んでもなお、多剤処方課題解決していない現状も再確認しました。かかりつけ薬剤師・薬局の定着も充分とは言えません。

薬剤師へ求めることとして、患者からどれだけ聞き取りが出来るか？また伝えられるか？健康に無関心な方へ関心を持って貰えるか？

浦氏は、薬剤師に求める事として薬剤師法第1条を挙げ、地域住民にとって身近な存在となり、健康の維持・増進に関する相談応需が出来るよう、知識・手段・仲間を増やし、周りを取込んで欲しいと話されました。



薬剤師へ期待を込めたご講演にぜひ応えていきたいと考えます。
(松永 みどり・木の実薬局)



埼玉県薬剤師会学術総会報告



11月5日に開催された埼玉県薬剤師会学術大会の特別講演では、当地区でもお世話になっている東京大学の今井博久教授、栃木医療センターの矢吹拓医師より、ポリファーマシーについて熱い講演を頂きました。

ポリファーマシーは当地区の新規事業でもあり、今井教授によると、これからのかかりつけ薬局・薬剤師は、ポリファーマシーこそ本来やるべき業務だとおっしゃっており、改めて当地区の新規事業の重要性を再認識致しました。

(理事 細川 玄機・三原薬局)

キッズファーマシー、大成功！

和光市健康フェア、朝霞市健康まつりにおいて、4歳～小学校低学年ぐらいのお子さんを対象に、キッズファーマシーを開催しました。

まず、白衣に着替えてもらい、健康と薬について、4つの約束をします。その後、錠剤、散剤に見立てた2種類のお菓子を計量スプーンで秤取、自動分包機で分封します。さらに薬袋を作成し、飲み薬ならぬのみ菓子をいれます。最後に修了証を渡してあげて、記念撮影をしました。

子供たちの反応は上々で、「とても楽しかった」、「薬剤師って面白いな」など、薬剤師の仕事に興味をもってくれました。子供たちだけでなく、「こうやって薬を作っているんだ、大変だ」と薬剤師の仕事を理解してくださる保護者の方々もいらっしゃいました。和光市、朝霞市合せて42名のキッズファーマシストが誕生しました。
(理事 細川 玄機・三原薬局)



「ポリファーマシー対策事業」進捗状況

10月27日、三師会講演会で「ポリファーマシー対策事業」についての概要説明を行い、行政と「覚え書」締結後に新座市国保の前期高齢者から対象患者リストの抽出をしました。国保データからの抽出作業自体が全国でも初めてということもあり難航しましたが、1月中に対象患者の確定後、薬局薬剤師のコーディネート力で、適正な薬物治療を目指します。そのためのツールとして「患者面談シート」「ポリファーマシー情報提供書」等の作成や事前研修も予定しています。

みなさま、ご協力をよろしくお願ひします。
(和光支部長 清水 勝子・新倉健康薬局)

埼玉西南地区骨代謝研究会

今年度7月、牧田産婦人科医院 牧田和也医師を中心とし、医師、歯科医師、薬剤師、コメディカルで構成された埼玉西南地区骨代謝研究会が発足しました。12月6日にベルセゾンで開催された第1回の研修会では、当会の松本裕司理事が「地域における骨粗鬆症薬の使用状況とコンプライアンスの実態」について講演し、大きな反響がありました。

骨密度の悪化と健康寿命には相関関係があることが分かっています。今後、薬剤師は地域の医療・介護と積極的に連携をとり、薬物治療だけでなく予防医療の担い手になることが大切であると実感しました。第2回の研修会は平成30年7月4日に開催予定です。



(理事 織田 朋久・あおぞら薬局)

健康サポート薬局誕生まで：木の実薬局(新座市)

四季折々を楽しめる平林寺から2kmほどにある、どんぐり色の茶色い建物が木の実薬局です。薬剤師4名、事務員2名が働く門前薬局、気軽に立ち寄れる癒しの空間創りを心がけています。

木の実薬局を運営する(株)かきの木は、医療と介護、2つの視点から地域のQOL貢献を目指しています。この運営方針により業務の多くの部分が、健康サポ機能を含めた「患者のための薬局ビジョン」に合致していました。

健サポ要件の1つの「かかりつけ機能」は、皆さんも取り組まれているお薬手帳の利用推奨や、かかりつけ薬剤師登録の推進および訪問業務です。その他、他職種連携として、独居で見守りが必要な方などを包括支援センターへ繋いでいます。

もう1つの要件「健康サポート機能」では、健康相談デーを「地域の方々の未病を支えたい。健康相談が出来る」と地域住民に認知して貰いたい」という願いで開催しています。

申請で苦労した点は2点、48品目を揃えることと、不慣れな健サポ薬局手順書作成に数ヶ月もかかりました。

感じるやりがいには、面処方が増えている事とOTC販売が増えている事です。健サポ申請がスムーズに行える事は、薬局と地域双方に良いはずです。

健サポ認定は全国でもわずか1%ですが、数年後の朝霞地区に期待します！(松永 みどり・木の実薬局)



日本薬剤師会学術大会報告



10月8日、9日の2日間、有楽町の東京国際フォーラム、J P タワーホール&カンファレンスに於いて、第50回日本薬剤師会学術大会が開催されました。今大会では、地域包括ケアシステムへの参画、健康サポート薬局並びにかかりつけ薬剤師、薬局の役割など地域医療で活躍する薬剤師についての講演、発表が目につき、今後の業務の励みになりました。
(理事 細川 玄機・三原薬局)

おすすめの1冊

スポーツ栄養学

科学の基礎から「なぜ？」にこたえる
寺田 新 著(東京大学出版会)

生化学的な知見からパフォーマンス改善に効果的な摂取法まで、エビデンスに即して解説しています。

例えば「糖質制限食は体重減少効果については否定的だが高タンパク食による食欲抑制効果は期待できるかもしれない」など、患者さんのアドバイスに応用できるような情報です。



(志木支部長 田代 健・地球堂薬局)

齋藤 百枝美 宮本 法子著
くすりを使うときの12の約束
(東京薬科大学出版会)
失敗から学ぶ薬を使うときの12のルール(薬事日報社)



11月7日開催された学校薬剤師研修会講師の宮本先生の想いのこもった本です。早くからの「薬教育」の必要性とそれに薬剤師がかかわることの大切さを、情熱を込めて語っていただきました。学校や市民向けのおくすり講座などにすぐ使える内容です。

(和光支部長 清水 勝子・新倉健康薬局)

